

株式会社 土佐龍

【所在地】〒785-0163 高知県須崎市浦ノ内東分2830
 【TEL】0889-49-0111 【FAX】0889-49-0049
 【E-mail】ryusho@tosaryu.com
 【URL】http://www.tosaryu.com/
 【設立】1979年(昭和54年)8月10日
 【従業員】30名 【資本金】3,500万円
 【主たる業種】県産材の木材加工

代表取締役
池 龍昇



企業概要 木製家庭用品 / インテリアアクセサリーの製造卸販売

ものづくり技術 デザイン 小規模型 設備投資のみ

「焼印まな板」の製造販売強化を実現する生産体制の確立

事業計画概要

課題であるボトルネック工程の改善を図るために、レーザー加工機を導入する。「審美性の高いノベルティを求める企業・団体」等をターゲットに、効果的・効率的な販路開拓を行い、地産外商による外貨獲得等を実現していく。

事業取組みの経緯

当社は、高幡地域に育つヒノキを「四万十ひのき」の名称でブランド化し、県産材を用いてさまざまな木製家庭用品の製造・販売を行っている。中でも、間伐材を活用した「四万十ひのきのまな板」は年間25万枚を生産する主力商品となっており、日本の有名百貨店や専門店での販売や、メーカーや販売店からのオリジナル製品の受注生産など、販売は好調で今後も伸びる傾向にある。同時に、国内外ともに洋風料理に使用するカッティングボードも需要が伸びており、ドイツの刃物メーカーと提携し海外7カ国にも輸出している。



その背景には、和食の広がりから魚をさばくのに適した和包丁の人気が高まり、包丁の刃こぼれを防ぐために当たりのやわらかい木のまな板が好まれていることにある。そのデザインや厚み、大きさなどはさまざまで、販売店の意向によるOEMの受注生産が多くを占めている。

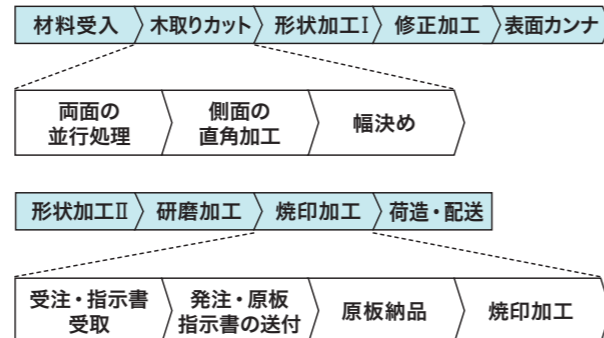
OEMの場合、すべて小ロットの受注生産であり、メーカーのロゴを入れてほしいとの要望が多く、焼印を押印して対応していた。押印は当社の押印機で行うものの、焼印の原板製造は外注しており、クライアントからロゴデータを受け取ってから発注し、原板が完成するまで約20日を要していた。納期や

発注の管理に手間がかかることに加え、常時140種類の焼印原板を保有していることから、保存場所の確保や管理も課題となっていた。

まな板の製造は、①材料受け入れ②木取りカット③形状加工Ⅰ④修正加工⑤表面カンナ⑥形状加工Ⅱ⑦研磨加工⑧焼印加工⑨荷造り・発送の9工程である。焼印の原板製造がボトルネックとなって、納期長期化および生産力低下の要因となることで、クライアントから刻印入りまな板の試作要望があっても、即対応することができない状態であった。販売機会の損失にもつながっていたことから、スピード感のある対応をするために刻印の工程を内製化することが急務となっていた。

本事業により、木材への刻印を行うレーザー加工機を導入し、課題解決を図る。

まな板の製造プロセス



実施内容

レーザー加工機(L-908PC-60型) 1台

多彩な加工モードで彫刻・切断ができ、さまざまな加工用途に対応できる。

材料を貫通し、特徴ある形状の切り抜きもできるため、刻印だけにとどまらず、多種多様な製品を作ることができる。高速稼動で作業効率が高く、データ加工も容易である。



▲レーザー加工機

事業取組みの成果

ロゴマークの焼印入りまな板の製造が、レーザー加工機の導入により焼印の外注製造の工程がなくなり、リードタイムが20日間短縮された。同時に全体的な生産能力が大幅に向上し、問題であった納期要求・数量に対してスムーズに回答できる体制が整った。生産能力が向上したことで、新たなデザインのまな板やカッティングボードの受注や短納期の注文に対応できるようになり、生産量は20%強増大した。

また、従来の焼印では、試作品の製造のために焼印を作ることが費用的にも時間的にも難しかったが、レーザー加工機を使用することで簡便になった。家紋、メッセージ、名入れなどの複雑な形状にも対応できるため、クライアントのニーズに合致する商品の提案が容易になった。

さらに、サイズ違いの試作品依頼に対して、ロゴマークを拡大・縮小してサイズに合った刻印ができるようになり、より質の高い提案ができるようになった。試作品をスピーディーに製作し、意思決定に持ち込むことで販売機会のロスがなくなり、受注拡大につながった。

今回、レーザー加工機の導入に先駆け、本機の性能を十分に活用できる高いノウハウを有する社員を獲得し、それにより高度な加工が可能となり、創意工夫に満ちた商品が生まれている。その一例として、ロゴマーク入りのまな板と相性のよい商品として手がけているのが、包丁のグリップと鞘である。グリップエンドにロゴマークを刻印する名入れグリップは、焼印押印機では対応できない形である。

製品内容

四万十ひのきのまな板
 端材を活用した雑貨・みやげ物品
 木の質感を生かしたキッチン用品の部材



今後の活動予定・販売計画

レーザー加工機導入により、新たな分野に踏み出すことができた。レーザー加工の技術に興味がある社員もおり、会社全体の士気が向上した。OJTによる技術指導を行っており、今後技術の共有を図っていく。

現在、焼印入りまな板のOEMが主力であるが、当まな板に並ぶ当社のヒット商品である洗濯板にもロゴマークや名入れ加工を展開していく計画である。将来的には、ホームページでの販売も行い、個人の名入れ販売にも個別に対応したいと考えている。

四万十ひのきのまな板を国内外ともに広く販売することで、「四万十ひのき」のブランド力をさらに向上させるとともに、銘入れの加工と行うことで間伐材を付加価値の高い商品として販売し、林業者への還元を図りたい。